

# 魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 房前 千里 所属: 守口市立さつき学園(前期) 記録日: 2020年 2月10日

キーワード: 読み書き支援、学び方、自己肯定感

## 【対象児の情報】

・学年

小学校3年生

## ・障害名

読み書き障がいの疑い

## ・障害と困難の内容

- ・漢字を覚えたり、細かい部分の字形を捉えることが苦手で、家庭で宿題として取り組むことが難しい。
- ・ゲームや YouTube の長時間視聴で生活リズムを崩したり、登校しにくいことがある。
- ・少しずつ収まってきてはいるが、こだわりから長時間落ち着けなかったり、家族に対して過度に関わってしまうことがある。

## 【活動目的】

・当初のねらい

- ①情緒の安定を図り、穏やかに過ごせるようになる。
- ②学習面での困り感を軽減していく。

・実施期間

2019年5月～2020年2月末

・実施者 房前 千里

・実施者と対象児の関係 通級指導教室担任(自校通級)

## 【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

◆WISC-IVの結果(7歳10か月時実施)では言語理解(VIC)、知覚推理(PRI)の苦手さを指摘されているが、分からないことは教師に伝え、学習しようとする意欲がある。

◆音韻操作(単語逆唱、単語削除)が苦手で、時間がかかる。(ELCの結果では、標準の2倍以上)

◆URAWSS II の内容理解問題正答数  
自分で読む 2/6  
代読後 5/6

本人の主観的評価 4:どちらかといえば読んでもらう方が分かりやすい



## ○聞くこと・話すこと

口頭で説明を受けた内容の一部分を気にすることが多く、あとで修正されて大丈夫だと言われても安心できない。聞かれたことには短く答え、詳しく聞かれると「分からない・忘れた」と言うが、自分の興味のあることについては、相手が理解していない様子でも話し続ける。

## ○読むこと

初めて読む文では、語のまとまりが捉えにくく、読むのに時間がかかる。自分で読んでも内容を聞き返したり、読んでもらいたがる。

## ○書くこと

(聴写・視写)

聞き取ったことを書き写すのは苦手であり、2年生3学期に行ったひらがな聴写の課題でも空欄が目立った。書き写しはできるが、自分の考えを書くのは苦手である。

(漢字)

漢字を書くことには抵抗が強く、授業中には書いても、家庭に持ち帰るとどんなタイプの課題にでも取り組みにくい。一方、学校で宿題に取り組む場合には、抵抗感が少ない。一生懸命宿題に取り組んでも、漢字のテストで成果が出せない。

## ○ことばの理解

ことばの表す範囲や、話す相手の意図、背景を理解することが苦手である。外食したのに「晩ごはんは?」と母親に尋ねたり、好きな料理を聞かれて食品名を答えるなど、正しく情報を受け取れていないことや、児童の中でつながっていないことがある。

## ○情緒面

家庭では、宿題をすることによりかなりなストレスを感じる様子である。しかし、必ず仕上げたいと強く思っており、提出できないかもしれないと感じると、長時間の不安が続き、適切に行動しにくくなる。

宿題や持ち物のことで叱られないかという不安が大きく、自分が思うように用意できず、登校するタイミングを失うと、家から出にくくなる。また、自分では後から思い出せないほど不安定になる。



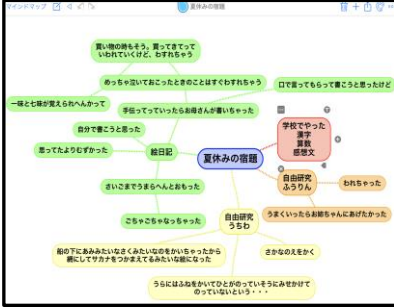
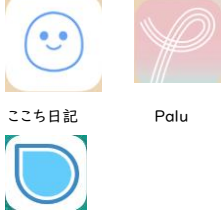
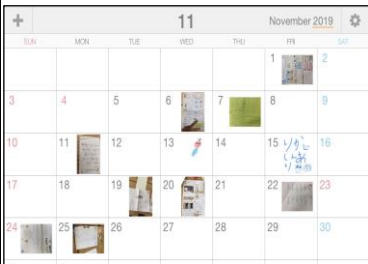
## ・活動の具体的内容

児童はこれまで学校の持ち物や宿題でうまくいかない日ほど、ゲームや YouTube といったデジタルやネットの世界に長時間浸っていた。感情が不安定な時にはその世界に入り込むあまり、心配する保護者や、教師が関わろうとしても児童の手の中には、いつも携帯電話やゲームなどが握られていた。

そこで、iPad を児童の生活の中に取り入れる際には、色々な機器を受け身の姿勢で使用して、いつの間にか生活自体を左右されているのではなく、教師と一緒に考え、自分で機器を使って、大好きなはずの学校生活を主体的に乗り切るための考え方や学習の方法を少しずつでも身につけて欲しい、中学年らしく友だちとたくさん関わり合い「子どもらしい生活」を取り戻して欲しいと考えた。そのため一つひとつの活動が本当に児童の情緒の安定につながるのか、学習において児童が安心して使えるようになるのかいうことを念頭に置き、本人と話し合いながら進めていった。

1 学期には安心して毎日登校できることが何よりと考え、ねらい①の活動を中心に行うこととした。

ねらい①情緒の安定を図り、穏やかに過ごせるように

めざす児童の姿	使用したアプリ	活動の内容
<p>・困ったことを自分で伝えられるようになる。</p> <p>☆友だちと同じ宿題を提出したいと強く願う児童であったが、家庭で取り組むと不安定になりやすいと自覚していたため、主に書く宿題については学校で取り組むこととした。</p>	 	<p>・持ち物や時間割のことで不安になった時には文字やスタンプを使い、自分で連絡してくるようし、「自分で伝えたら、安心できた」経験を積み重ねた。</p> <p>・困った時は ByTalk で、緊急性はないが、教師に伝えたいことがある時には、message で送ってくる。</p>
<p>・記録したことから自分の気持ちをふりかえることができるようになる。</p> <p>・出来事を可視化して整理する。</p>  <p>○夏休みの最後をふりかえった Mindmap</p>	  <p>○よかったことを記録しているカレンダー 「りかじしんあり」「special」の文字も見られる</p>	<p>・1日の出来事をふりかえり、今日の気分を選択したり、その気分になった理由について、音声入力や五十音キーボードを用いて、短い文で「こっち日記」に記入した。</p> <p>・カレンダーアプリ「Palu」に学校でうれしかったことやうまくいったことを写真で記録した。</p> <p>・納得いかないことや、思ったように事が運ばなかった時には、Mindmap を作成し、本当はどうしたかったのかについて言語化していった。</p>

困ったことを自分で伝えるための活動では、スタンプや文字を送る楽しさを味わいながらうまく経験を積み重ねた。しかし、当初一つのアプリに頼り切っていたため、最も困っているタイミングに教師と連絡が取れないという事態が生じてしまった。そのため、児童が連絡してくるための手段を複数持つておくことが必要であると考え、二つのアプリを併用することにした。困ったときには、「BY Talk for school」で、その他の時には「message」で送ってくるなど、児童なりに使い分けている。

記録からふりかえる活動では、はじめ「こっち日記」で記録していたが、家庭に持ち帰り自分で記録すると、良かったことがあったはずの日にも「ふつう」と記録している日が多くみられたことから、児童が分かりやすく、最も関心を持っており、話題に出すことの多かった学習の記録をカレンダーアプリ「Palu」に残していくことにした。

写真に撮るような成果物がない日にも、「りかじしんあり(テスト)」と書き込んだり、生まれてくるのを楽しみにしている兄弟のイラストを書き込んだりして、楽しんで記録する様子が見られた。また、何が原因かよくわらず落ち着けない時には、Mindmap +を使って整理し、感情を言語化したり、原因を探ったりすることに取り組んだ。


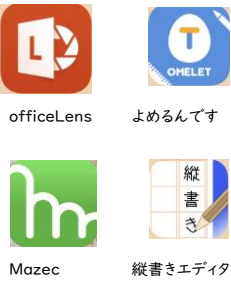
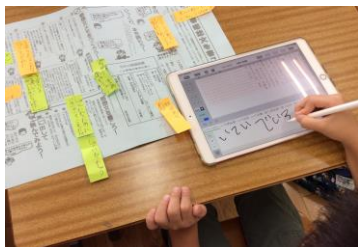

これらの活動の積み重ねにより、相談したら何とかなったという経験を児童は積み重ねていった。

## ねらい②学習面での困り感の軽減

### ②-1宿題に関して

これまで学習したいという意欲があっても、友だちと同じ課題に同じ方法で取り組もうとするほどに、疲れ切ってしまうことがあった。また、疲れ切るほどに頑張っているのに、本人が期待するような学習の成果が残せなかった。しかし、宿題を減らしたり、提出期限を伸ばしてもらうことでは児童の不安や気分の落ち込みは解消できなかった。

iPad を使用した学習の導入は、保護者と朝の連絡を取らなくても集団登校ができるようになったタイミングから開始した。本格的な取り組みは、安心して相談しながらじっくり取り組む時間を確保でき、何より多くの宿題に取り組まねばならない夏休みがよいと考え、取り組み始めた。

めざす児童の姿	使用したアプリ	活動の内容
<p>・自分が取り組みやすい方法を教師と一緒にさぐり、自分で取り組んだらうまくいったという経験を積み重ねる。</p>  <p>○見えやすい色で読み仮名を記入した手本</p>	<p>使用したアプリ</p>   <p>○手書き文字を活字にするアプリを使って書く様子</p>	<p>・漢字ドリルの問題を自分の見やすい文字の大きさに調整したり、読み上げさせたりして、ノートに書くことに取り組んだ。</p> <p>・撮影した問題文に読み仮名を書き入れる際にも、見やすい色を自分で選択した。</p> <p>・小さいマスや原稿用紙には手書きでは書きにくく、自分の書いた文字を読み返したくても読みにくかったことから、手書き文字を活字にしてくれるMazecを使用し、原稿用紙に感想文を書きあげた。</p> 

新しいことに取り組むことや、友だちと違う方法を使うことには不安になりやすい児童であったが、iPad を使用した学習では、手本の文字を拡大して見ることで、「書くこと」が必要な課題には集中して取り組めた。何より、一番児童の心配が大きかった感想文の課題には、手書きを活字にするアプリを使って見た目も美しく仕上

げ、提出できたことで、自信をつけた。また、この夏休みの宿題への取り組みにより、児童の iPad への信頼が増し、2 学期も学習に使用していきたいと話さようになった。

## ②-2 やってみようとする気持ちを支える

2 学期も引き続き iPad を利用して、宿題の文字の読みやすさを調節し、課題に取り組んでいたが、課題を書き写すだけでは、提出物は出せても学習の成果を出すことは難しかった。そこで、「100 点やと思ったのに、85 点しか取れない」と何度か言ってきたタイミングで、その原因を児童とともに考え、書くよりも何度も見聞きすると内容が身につけやすい点に着目し、得意な力を生かした学習の方法に取り組み始めた。

めざす児童の姿	使用したアプリ	活動の内容
<p>・自分が得意な力を生かして学習する。</p>   <p>○デジタルのカードを使って自分で、友だちと一緒に学習する様子</p>	 <p>ロイロノート</p>  <p>フォト</p>  <p>Memoria</p>  <p>ACFlip</p>  <p>小3漢字ドリル</p>  <p>漢字クエスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロイロノート」のカードに九九を自分の声で録音したり、そのカードを ACFlip を用いてフラッシュカードにし、付箋をめくって自分で確認するなど、何度も見聞きし、自分で学習した。</li> <li>・「Memoria」を用いて、同じカードをひくことで漢字の正しい字形と読みを文字と音声で確認することに何度も取り組んだ。</li> <li>・家庭学習週間で、自由に課題を選べる際には、自分で取り組める課題として、アプリの漢字学習を自分で選択し、やり遂げた。</li> </ul>

## ・対象児の事後の変化

### ①情緒の安定を図り、穏やかに過ごせるようになる。

家庭で困った時には、自分で連絡すれば安心できたという経験を積み重ねた。複数の連絡手段を持っていることもあって、安心して過ごせている。すぐに返事が来なくても、自分が伝えた内容を何度も確認したり、以前のやり取りを見返したりできることから、不安なまま長時間過ごすということはなくなった。そして、気持ちを切り替え、返事を待って行動できるようになった。

### ②学習面での困り感の軽減

#### ②-1 宿題に関して

宿題は出来るだけ学校で済ませてから帰るようにしている。長時間集中し続けることは苦手であると児童も自覚しているので、iPad を使った漢字の宿題は最優先にし、休憩を挟んで次の課題に移るなど、自分なりに工夫して短時間で宿題を仕上げている。「問題文の拡大はしなくてもよいかも」と児童が話すこともあるが、iPad による見やすさの工夫がない場合は、漢字を書くだけで疲れ果て、他の宿題をする余力がなくなってしまう。児童の願いでもある「友だちと同じ宿題に取り組むこと」には、見やすくする工夫が今後も必要と考えている。また、最近では、書き写すだけでなく、宿題の途中で分からない漢字を検索する姿も見られる。iPad をどう

使えば児童の学習の助けとなりうるかについては、今後も体験を重ねる中で、納得できるものを選択して行って欲しいと考えている。

## ②-2やってみようとする気持ちを支える

通級指導の際には、児童の得意な見聞きする力を使って、学習に取り組んだ。それまでも、カルタやカードなどで何度も漢字に取り組み、読みにあった漢字を選択することはできていたが、通常の学級での漢字テストで解答をすることは難しかった。iPad で作成したデジタルのカードを用いた学習では、手ですぐに確認できること、特別な用意がいらないこと、友だちも一緒に学習できることから、何度もくりかえし取り組んだ。何度も取り組むことで漢字のパーツを意識したり、教科書に出ている以外の読み方も教えて欲しいというようになってきた。取り組みば取り組むほど少しのヒントで思い出して書ける漢字が増え、小テストでも解答できたと話す日が増えてきた。また、2 学期末のテストでは50問テストで合格するまで、10問ずつに分けて取り組み、合計 86 点になるまでやり遂げた。他にも、デジタルのカードを使った学習としては、間違えて覚えているかけざん九九を覚え直すことにも取り組んだ。その結果、算数のテストでも本人の納得のいく得点を出すことができ、自分でテストの写真を撮り、カレンダーアプリに記録する数も増えていった。繰り返し学習しないと思い出すことが難しくなる児童であるが、「そろそろアプリのカードをやろうかな」と自主的に取り組む姿も見られるようになってきた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

☆児童は漢字や作文などの「書く」課題はうまくいかないと思い込んでいたが、iPad を操作して文字を見やすくすることで書くことへの負担感が減り、宿題にも取り組めるようになった。

☆宿題を毎日提出することで安心して過ごせる時間が増え、自分をふり返ったり、どうしたいか話せるようになってきた。そのため、苦手なことにも挑戦し、教師に相談してはうまくいった経験を積み重ねている。

#### ・エビデンス

☆1 学期当初は、登校時に不調であると母親が連絡してくることが多かったが、現在は続けて集団登校で学校へ来ることが当たり前のことになってきた。宿題のノートやプリントを必ず提出できることで、安心して一日のスタートを切ることができる。そのため、朝の時間や昼休みには、友だちと誘い合って遊ぶだけでなく、遊び係の仕事を引き受けるなど、所在なく通級の教室で過ごすことはなくなった。

☆2 年生時には、週末になるとコレクションしているカードを買うことを大変楽しみに過ごしていた。多量のカードを持っているにもかかわらず、何枚も買い続けたり、週末にカードを買ってもらうことで安定を保つ様子も見受

九九を覚えなおすことで、あまりのある割り算のプリントでも、回答できる数が増えてきた。








日時	タイム	〇の数	一言コメント
8月21日	5分00秒		九九
9月2日	6分00秒	1	九九
9月5日	5分00秒	1	九九
9月9日	5分00秒	2	九九
10月3日	5分00秒	1	九九
10月10日	5分00秒	1	九九
10月17日	5分00秒	5	九九
10月29日	5分00秒	8	九九
11月7日	5分00秒	8	九九
11月11日	5分00秒	2	九九
11月14日	5分00秒	4	九九
11月20日	5分00秒	3	九九
11月26日	5分00秒	10	九九
11月28日	6分00秒	7	九九
12月2日	5分00秒	0	九九
12月4日	5分00秒	5	九九
12月9日	5分00秒	11	九九

けられた。また、学期中に何度かある家庭学習週間では、以前は「自分でできる課題は読書以外に考えられないから、自分が読める本を週末に買ってもらわないといけない」と話し、不安そうな様子があった。しかし、iPadを使用し、自分一人でも取り組める学習の方法を習得できたことで、アプリで漢字や九九を覚えなおす学習を選択するようになってきた。現在はカードを手放し、週末の買い物がないと登校しにくいという状況からは抜け出すことができた。学習で不安になることが少なくなり、学習や友だちとの関係の中で楽しみにできることが広がったことが要因であると考えている。

☆児童がやらなくてはならないと強く思っている宿題は、一生懸命やっても、「85点までしか取れない、なんでだろう」と話し、課題を克服するための新しい学習方法の提案を、「やってみようかな」と受け入れて試すことがスムーズにできるようになった。また、「これは、今日は無理だからまた明日にする」と取り組む方法や時間を相談しながらも自分で決めることができる。やむを得ず家庭に持ち帰った課題も、余力があれば自分で取り組んで、翌日見せに来るようになった。下校後は、翌日の用意を素早く済ませ、仕事中の母親に報告して自宅で待つ等、家庭でも母親から褒められることが増え、翌朝に「ほめられてうれしかった」と報告に来ることもある。学習でうまくいくことの積み重ねが、日常生活の場面でもうまくいくことに連鎖しつつある。

### 児童の発言の変化

★写真は使用したアプリ

1学期	夏休み	9月	10月	11月	12月	1月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラついた。</li> <li>・頭が痛い。</li> <li>・明日は算数の時間通級に行ってもいい？</li> <li>・時間割がかわったから学校に行きたくない</li> <li>・学校はいや。(こち日記から)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これやったらできるかも。</li> <li>・終わったら3分間休憩してまたやるわ。(OMLETよめるんですを使用した漢字の宿題)</li> <li>・お母さんに言ってもらって書いたら日記が書けると思ったのに。(ByTalkforschoolの記録から)</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の宿題どうしよう。</li> <li>・漢字は書けないから選ぶだけにして。</li> <li>・すごいやろ。漢字の小テストで点が取れた。</li> </ul>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日も九九からやらないと。</li> <li>・算数と理科は100点もとれるなあ。</li> <li>・宿題は漢字からしよ。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で書きたいから。(漢字の手本は見ないで)</li> <li>・豆って言って欲しかった(大豆)</li> <li>・ヒントを言って欲しい(漢字の別の読み方や部首)</li> <li>・自主学習は自分でやらなあかんから漢字のアプリを家でやるわ。</li> <li>・朝の学習(あまりのある割り算)なんとかなりそう。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の50問テストで8問は合ってた。</li> <li>・10問ずつやったらどうになるかも。</li> <li>・かしくなってきた。</li> <li>・冬休みも宿題は頑張ろうと思うねん。</li> <li>・どうしても宿題終わらんから(冬休みも二日間は学習してきた)、1月先生が来る日はいつ？</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九九表があったら自分で書いてもまちがわない。(2桁×2桁の筆算)</li> <li>・これはがんばったけど終わらないから、また(翌日)でもいいかな。</li> <li>・そろそろ漢字とか九九のカードをめくるやつをやったほうがいいかな。</li> <li>・家庭学習はアプリの漢字にするわ。</li> </ul>  

### 【今後の見通し】

これまでは教師や保護者がどんなに説明しても、友だちと同じ方法で、たくさん問題を解き、漢字を書かないと誰かに叱られるかもしれないという不安を持っていた児童であった。しかし、困ったことは相談すれば解決する経験を積み重ね、情緒が安定し、安心して自分なりの方法で取り組んだ結果、学習の成果が出せるようになってきた。また、自分の思いや疲労度を素直に表現し、相談して学習の量を調節している。この相談し調整する力こそが、今後の学習意欲の持続や、学年や担任が変わっても学び続ける姿勢を支えていくと考えている。教師と相談しながら自分に合う方法を選択し、15歳までの6年間も義務教育学校である本校で、友だちと一緒に安心して学び続けて欲しいと願っている。また、この取り組みをきっかけに、宿題の在り方や支援教育的視点を取り入れた学習の実践の報告、また、通常の学級で取り入れられる可能性について、校内支援委員会を通じて発信していった。前期課程で(小学校)で習得したスキルを後期課程(中学校)でどう生かし、進路選択の幅を広げていくのかについては、職員全員で今後も考えていきたい。